

20/6 期建材機械分離し 4.9%増収 42.4%増と 5G 関連増で収益上伸、21/6 期も増益へ

株価 506 円 (8/21) 時価総額 38.7 億円 (8/21) 発行済株 7649 千株 (8/21)
 PER (21/6 期会予 10.2X) PBR (1.9X) 配当 (21/6 期予) 5 円 配当利回り 1.0%

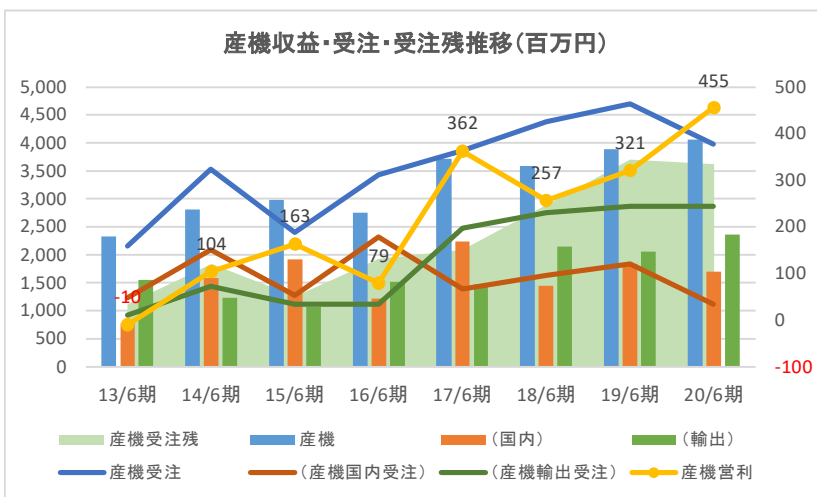
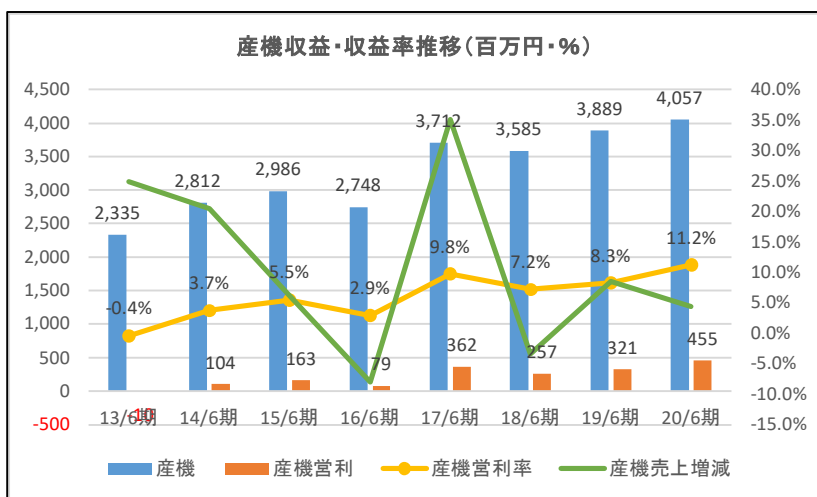
要約

- 20/6 期 21.1%減収 16.6%増と建材機械分離し 5G 関連増で 4.9%増収 42.4%増と
- 21/6 期も 5G 向け中心に CCL プレス好調持続し、12.5%増収 4%増と
- 22/6 期 5G 向け拡大で収益上伸見通し、受注は自動車向け CFRTP シート積層プレス期待
- 株価は高値圏も、5G 関連として当面 1 月高値を抜き 19 年 3 月高値 624 円奪回目標

20/6 期 21.1%減収 16.6%増と建材機械分離し 5G 関連増で 4.9%増収 42.4%増と

プリント基板プレス、FA 機械の中堅。19/6 期に 1957 年の創業時の建材機械事業を譲渡、プリント基板プレストップの事業を中心に事業展開する。8/19 に 20/3 期決算が開示され、8/21 に決算説明会が開催された。

20/6 期は売上高 42.66 億円 (21.1%減)、売上総利益 10.93 億円 (19.0%減)、営業利益 4.80 億円 (16.6%減)、経常利益 4.80 億円 (13.4%減)、税引利益 3.26 億円 (2.03 倍) となった。但し 19/6 期に子会社の建材機械事業を完全譲渡しており、プリント基板プレスを中心とする産業機械が 95%を占め、実質的には 4.9%増収、20.0%売



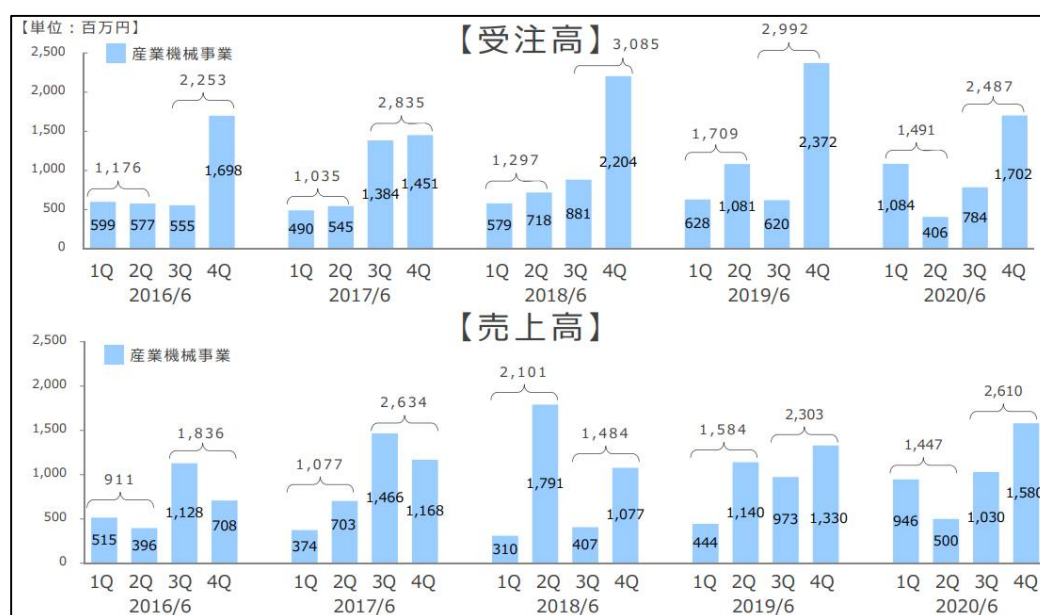
上総利益増、42.4%営業増、46.8%経常増、税引利益 3.36 倍と好調な決算となった。なお、11/8 修正予想に対して売上高で 0.66 億円、営業利益で 1.3 億円、経常利益で 1.4 億円、税引利益で 1.76 億円上振れて着地した。

部門別では建材機械がなくなったことで、産業機械が 95%を占めるため、産業機械の動向で収益が決まる。20/6 期産業機械売上は 40.57 億円（4.3%増）、営業 4.55 億円（41.7%増）、受注 39.78 億円（15.4%減）、受注残 36.24 億円（2.1%減）に。売上では大型案件の受注を背景に工場稼働率が向上、5G 向けに CCL（銅張積層板）成形用真空大型プレス（世界トップシェア、ライバルは旧名機製作所、4/1 日本製鋼所吸収合併）、高温非エポキシ対応

CCL が拡大、収益性も向上した。受注は 15.4%減ながら、特に Q4 で 17.02 億円（28.2%減）に止まったのは、コロナによるロックダウンで主力ユーザーの中国での商談の中止、遅延があったためと推察され、ロックアウト開きの CCL 成形用プレスの引き合いは依然として旺盛とのこと。なお、同社は産業機械の売上、受注について守秘義務の関係からか、機種別、地域別の開



示を行っていない。但し受注残高について 19/6 期より内訳を開示、これによるとプリント基板用プレス受注残が 17.99 億円（27.8%増、構成比 49.6%）、その他プレス 14.41 億円（23.4%減、構成比 39.8%）となっている。プリント基板用プレスの受注残高が増加しているのは大型 CCL 成形用真空大型プレスの受注が好調で、納期が 10~12 ヶ月程度かかると見られることから、受注残高が積み上がったとみられる。



なお、同社は中期経営計画として産業機械で21/6期に売上高43億円、営業利益3.8億円を目指していたが、既にこの数字を1年前倒しで超過達成したことになる。

21/6期も5G向け中心にCCLプレス好調持続し、12.5%増収4%増利増予想

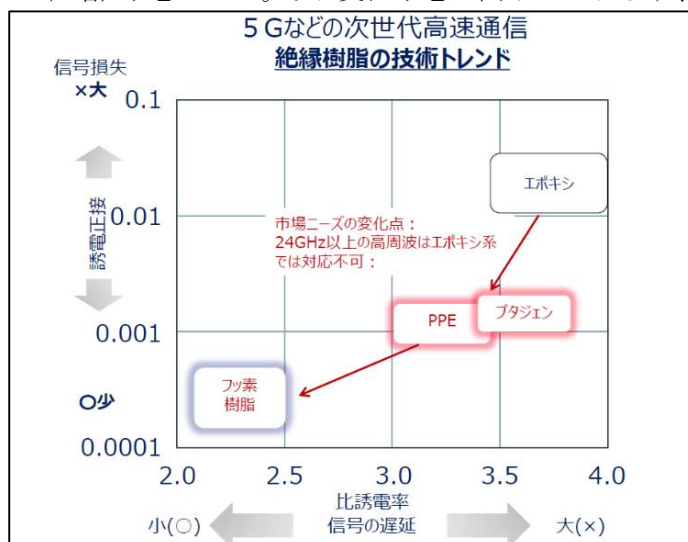
21/6期会社予想は売上高48億円(12.5%増)、増利5億円(4.0%増)、経常利益4.8億円(0.1%減)、税引利益3.8億円(16.5%増)予想とした。なお受注予想は開示しておらず、売上程度の48億円(15.6%増)を確保できたらとのこと。

現状、中国、台湾中心に5G向けのCCL製造投資が引き続き好調で、中国向けで大型案件の引き合いが続いているとのこと。特に最近では5G端末などでミリ波対応PCB基板の需要が高まっており、従来のエポキシ樹脂は高周波信号の電送損失が大きく、LCP(液晶ポリマー)などの比誘電率の小さい耐熱基板が求められており、

新たな需要が期待される。20/6期は4億円程度の受注獲得とみられるが、21年のスマホモデルはミドルレンジの機種でもミリ波対応が進むとみられ、高水準の受注拡大が見込める。

なお、21/6期上期が91.1%増収、62.9%増利増予想に対し、下期は33.3%減収、33.7%増利減予想となっている。上期はその他プレス部門で採算の若干落ちる大口案件の売上が見込まれ、下期は大幅減収ながら採算の良い案件が売上計上されることから、営業利益率は大幅減収ながら上期比1.1ポイント向上し、11.1%を見込む。

全体として受注残からの今期の売上げ見込みが立っており、中国、台湾が輸出の中心であるため、コロナで再度大きな混乱が無い前提で、21/6期会社計画並みの収益が期待される。



高多層リジッドプリント配線板

2019年見込	2018年比	2025年予測	2018年比
111万m ²	103.7%	150万m ²	140.2%
1,748億円	105.5%	2,622億円	158.2%

低誘電FPC※ベースフィルム(低誘電PI、LCP) ※フレキシブルプリント基板

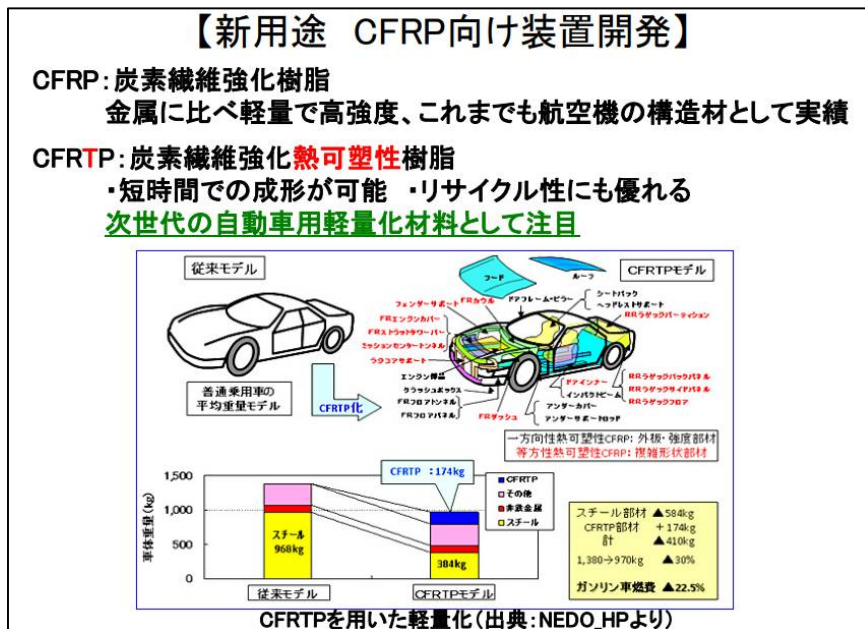
2019年見込	2018年比	2025年予測	2018年比
480万m ²	177.8%	900万m ²	3.3倍
93億円	178.8%	142億円	2.7倍

全体として受注残からの今期の売上げ見込みが立っており、中国、台湾が輸出の中心であるため、コロナで再度大きな混乱が無い前提で、21/6期会社計画並みの収益が期待される。

22/6 期 5G 向け拡大で収益上伸見通し、受注は自動車向け CFRTP シート積層プレス期待

22/6 期は 5G 端末の本格普及期にあたり、5G 向け CCL プレスの売上は拡大が続き、受注の伸びは一服すると見られるが、高水準の受注が継続しよう。一方、スマホ以外では、自動車の安全対策、無人運転などの推進で、車載 ADAS 需要拡大から耐熱基板、高周波対応基板向けなどの需要が高まろう。加えて自動車の軽量化対策として CFRP(炭素繊維強化樹脂)の採用が始まろうとしている。更に同社は短時間で成形が可能な CFRTP(炭素繊維強化熱可塑性樹脂)シートのスタンピング装置も開発、1 m²角の大判シート成型も可能となっており、自動車フードやルーフ向けに量産向け受注も視野に入ろう。

CFRTP(炭素繊維強化熱可塑性樹脂)の採用が始まろうとしている。更に同社は短時間で成形が可能な CFRTP(炭素



繊維強化熱可塑性樹脂)シートのスタンピング装置も開発、1 m²角の大判シート成型も可能となっており、自動車フードやルーフ向けに量産向け受注も視野に入ろう。

全体として 22/6 期は増収効果に加え、MIX 良化で利益の伸び率も高まり、新分野での受注拡大も期待される。

株価は高値圏も、5G 関連として当面 1 月高値を抜き 19 年 3 月高値 624 円奪回目標

株価は業績好調を受け、3/13 の安値 248 円から倍の水準になり、1/9 高値の 559 円に近づきつつある。現状、PER10 倍は 5G 関連として割安感があり、今期微増益予想ながら、来期は収益上伸が見込まれ、当面、1 月高値 559 円抜け、その後、19 年 3 月高値の 624 円抜けを目標とする。

北川精機(6327)	(百万円、円)									
	売上高	増減率	営業利益	増減率	経常利益	増減率	税引利益	増減率	EPS	配当
19/6期(除建材機械)	4,067	-	337	-	327	-	97	-	12.78	0.00
20/6H1(除建材機械)	1,570	-6.5%	184	18.7%	180	25.8%	27	-75.7%	3.64	0.00
20/6H2(除建材機械)	2,697	12.9%	297	63.2%	301	63.0%	299	黒転	38.98	0.00
20/6期(除建材機械)	4,266	4.9%	480	42.4%	480	46.8%	326	236.1%	42.62	0.00
21/6H1会予	3,000	91.1%	300	62.9%	280	54.9%	230	726.2%	30.07	0.00
21/6H2会予	1,800	-33.3%	200	-32.7%	200	-33.6%	150	-49.8%	19.62	5.00
21/6期会予	4,800	12.5%	500	4.0%	480	-0.1%	380	16.5%	49.69	5.00
22/6期DO予	5,500	14.6%	700	40.0%	680	41.7%	480	26.3%	62.77	6.00
23/6期DO予	5,800	5.5%	750	7.1%	730	7.4%	530	10.4%	69.30	7.00

